

令和7年度 事業計画書

社会福祉法人 幸和会

令和7年度 しらさぎ苑事業計画書

現 状 と 課 題	<p>【しらさぎ苑】</p> <p>(1) 開設43年、介護保険制度導入25年を迎え、次の点が危惧される。</p> <p>① 入居者の希望ではなく、職員本位の介護が行われていないか</p> <p>② 介護を行うに当たり、入居者個人の尊厳が守られているか。</p> <p>③ 入居者の人生観を反映したケアプランが作成されているか。</p> <p>(2) 職員間の意思疎通の欠如している。</p> <p>(3) 業務改善の取組が進んでいない。</p> <p>【しらさぎ苑居宅介護支援センター】</p> <p>(1) 開設及び介護保険制度導入25年を迎え、次の点が危惧される。</p> <p>① 利用者の意向を尊重し、個人の尊厳を守りながら、その人の立場に寄り添った支援が行われているか。</p> <p>② 利用者の人生観を反映したケアプランが作成されているか。</p> <p>(2) 担当以外の利用者の情報が共有化されていない。緊急時の対応に不安がある。</p>
今年度の数値目標	<p>広域型特養稼働率（95）% 前年度（92）%</p> <p>地域密着型特養稼働率（95）% 前年度（93）%</p> <p>※空床型短期入所生活介護事業も含む</p> <p>通所介護事業稼働率（67）%・1日平均（20）人 前年度（61）%・1日平均（18.4）人</p> <p>居宅介護支援事業稼働率（95）%・1月平均（126）件 前年度（94）%・1月平均（125）件</p>
今年度の目標	<p>【しらさぎ苑】</p> <p>(1) 「利用者のニーズ」、「個人の尊厳」、「人生観を反映したケアプラン」をキーワードに介護サービス内容の総点検の実施</p> <p>(2) 多職種間の連携とチームワークの醸成</p> <p>(3) 職場環境の改善</p> <p>【しらさぎ苑居宅介護支援センター】</p> <p>(1) 利用者及び家族のニーズを的確に把握し、その人らしいケアプランの作成</p> <p>(2) 緊急時のスムーズな対応</p>
職員採用計画	<p>○ 日本語能力・介護経験を考慮した特定技能実習生（1～2名）</p> <p>○ 新卒大学生（社会福祉士等）1名：就職フェアや大学との連携を通じて採用を目指します</p>
主な修繕・改修工事、備品購入の予定	<p>① 非常用自家発電設備整備</p> <p>② 従来型多床室のプライバシー保護のための改修</p> <p>③ LED照明への設備整備</p> <p>④ 駐輪場の整備</p> <p>⑤ モジュール型車椅子・リクライニング車椅子・シルバーカー</p>

主な修繕・改修工事、 備品購入の予定	⑥ 入浴用ポジショニングホルダー ⑦ 医療用電子血圧計 ⑧ 非常食（職員用）及び災害用トイレ ⑨ 施設内外の段差の解消及び壁紙などの補修工事全般
-----------------------	---

目標達成に向けた取組（地域との関係構築を含む）

【総務課】

(1) 業務改善と連携強化

- 課題の抽出と改善に向けた会議（1回/3ヶ月）を開催し、チーム内の協力体制を強化します。
- インカムの運用方法を見直し、業務中の連携を促進します。

(2) 介助の質向上と研修計画

- 誤嚥性肺炎と尿路感染の予防を重点に介助方法を見直し、職員の質向上と稼働率安定を図ります。
- <年間研修予定>

4月：オムツ交換　7月：移乗介助　10月：入浴介助　1月：食事介助

(3) ケアプランの実効性向上

- カンファレンスにご本人・ご家族の参加を促進し、希望を反映したケアプランを作成します。
- 居室担当者が毎月モニタリングを実施し、ケアプランの実行状況を確認します。

<モニタリング内容>

- ・ ケアプランに沿ったサービスの提供
- ・ 利用者・家族のニーズの充足状況
- ・ 要望の変化の有無
- ・ 目標達成状況の確認

(4) ニーズ把握と実現支援

- 居室担当者を中心に利用者のニーズを抽出し、実現に向けた取り組みを計画します（優先度はニーズ件数により判断）

(5) 地域連携の推進

- 幸手市社会福祉協議会と連携し、ボランティア活動への参加を通じて地域とのつながりを深めます。

【栄養課】

(1) 個別対応と栄養管理

- 嗜好や咀嚼・嚥下状態を把握し、低栄養や疾病重症化を防ぐ安全で適切な食事を提供します。
- 体重測定（1回/月）血液検査結果、喫食率をもとに栄養ケア計画を作成します。

(2) 食の楽しみの提供

- 季節感のある行事食やイベントを通じて、食事を楽しむ機会を創出します。

<主なイベント>

行事食：正月、ひな祭り、お花見、敬老祭、クリスマス等

食事イベント：魚の解体ショー、そば打ち、寿司イベント、焼き芋会（1回/年）、味めぐり（1回/月）、おやつバイキング（デイ：1回/月・特養1回/3ヶ月）

(3) 衛生管理の徹底

- 調理・配膳時の衛生管理を徹底し、感染症の予防に努めます。
- 集団感染発生時には多職種で迅速に対応できる体制を整えます。

【看護課】

(1) 連携と情報共有の強化

- 看護課会議（1回/月）を行い、スタッフ間の連携強化と業務分担の明確化を図ります。

(2) 機能訓練・アクティビティの充実

- ADL・QOL維持のための訓練（関節可動域、口腔体操、歩行訓練等）を強化、機能訓練指導員と協力し、リハビリ体操やアクティビティを実施します。

(3) 人材育成と教育体制の整備

- 教育担当者や研修担当の役割を明確にし、マニュアル整備・研修体制を充実させます。

(4) 外部研修の活用

- 医療・介護の最新動向に対応するため、外部研修や勉強会への参加を推進します。

(5) 多職種連携の推進

- 他部署との意見交換や合同カンファレンスを通じ、連携体制を強化します。

【1F 介護課】

(1) 非拘束ケアの実践

- 拘束についての意識共有と研修を行い、24時間シートで入居者の生活全体を把握し、安全で自由な生活を支援します。

(2) 個別ニーズへの対応

- 入居前の生活状況を把握し、入居後も継続できるよう支援します。
- ご家族との面談を通じて、ご希望に沿った生活を実現します。

(3) 業務の見える化と改善

- 業務マニュアルを整備し、短時間ミーティング（1回/週）を実施して課題を共有ユニットごとのカンファレンスで情報連携を図ります。

【2F 介護課】

(1) チームケアの推進

- 専門職との連携を通じてケアプランの一貫性を保ち、利用者に適した支援を提供します。

(2) 個別活動の支援

- 利用者の趣味・関心に基づいた外出支援やイベントを企画し、日々の楽しみを提供します。

(3) 研修体制の整備

- 外部講師による実地研修や施設内勉強会を定期開催し、職員全体のスキルアップを図ります。

(4) リハビリとレクリエーションの融合

- 集団リハビリ体操や個別の口腔体操・軽スポーツなどを通じ、楽しく健康を維持できる機会を提供します。

【通所介護課】

(1) 新規利用者の獲得

- 利用相談から確実に登録につなげる体制を強化し、送迎範囲や利用曜日の柔軟な調整を行います。

(2) 四季を感じるイベントの開催

- 専任職員を配置し、お花見・納涼祭・紅葉狩り・クリスマス会などを企画。利用者・ご家族の意見を反映したイベントを実施します。

(3) 施設の特徴を活かしたPR

- 口腔機能向上加算を活用し、機能訓練やADL維持をアピール。
- 居宅支援事業所等へチラシ配布・訪問営業を行い、利用者拡大を目指します。

【居宅介護支援所】

住み慣れたご自宅で、これまでの人生を大切にしながら、安心して穏やかに過ごしていただけるよう支援を行います。また、ご家族や身近な方々の精神的・身体的な介護負担の軽減にも努めます。

(1) 月1回のモニタリングの充実

- 口腔内の状態、処方内容、治療経過、検査結果などの最新情報を収集
- 関係する事業所と情報を共有し、常に的確なケアを提供できるよう努める。

(2) 緊急対応への備え

- 看取りなど、迅速な対応が求められるケースについては、担当ケアマネジャー以外の職員も対応できるように、情報を居宅介護支援内で共有体制を整え、緊急時に備える。

(3) ACP（人生会議）の推進

- 利用者をご自身の意思を表明できる段階から、望まれる医療やケアについて繰り返し話し合いの場を設ける。
- その意思はご本人をはじめ、ご家族や身近な方々と共有し、尊重される支援を行う。

令和7年度 桜楓苑事業計画書

現 状 と 課 題	<p>【特 養】</p> <p>(1) 入院者の増加により稼働率の低下 従来型特養（現状 92.7%）</p> <p>(2) 身体拘束者がいる。（現状 3人）</p> <p>(3) 導入した眠りスキャンが十分に活用されていない。</p> <p>(4) 施設設備の老朽化により、設備の不備、故障等が起きている。</p> <p>【通 所】</p> <p>(1) 稼働率低迷（現状 48.8%）による事業収益の悪化</p> <p>【居 宅】</p> <p>(1) ケアマネの業務負担の増大</p> <p>(2) 地域資源の不足とサービス調整の困難さ</p> <p>【小規模多機能】</p> <p>(1) 外部のケアマネや地域包括支援センターからの紹介が少ない。</p> <p>(2) 記録作成時に何度も転記する必要がある。</p> <p>【ケアハウス】</p> <p>(1) ケアハウスの収益悪化（稼働が現状 73%）</p> <p>(2) 入居者の重度化に伴い、要介護者の増加</p>
今年度の目標（稼働率）	<p>【特 養】</p> <p>年間の従来型特養稼働率 95% 地域密着型特養稼働率 90%</p> <p>【通 所】</p> <p>日平均利用者数の目標を 17 人（定員の 55%）</p> <p>【小規模多機能】</p> <p>年間の稼働率 88%</p> <p>【ケアハウス】</p> <p>年間の稼働率 80%</p>
今 年 度 の 目 標	<p>【特 養】</p> <p>(1) 年間の従来型特養稼働率 95%の達成</p> <p>(2) 身体拘束者をゼロにする。</p> <p>(3) 導入機器の活用方法の習熟</p> <p>(4) 地域密着型特養の大規模修繕の実施</p> <p>【通 所】</p> <p>(1) 稼働率の向上と一人当たりの単価を上げるための新規加算の算定</p> <p>【居 宅】</p> <p>(1) ICT 活用と業務効率化</p> <p>(2) 地域との連携強化</p> <p>【小規模多機能】</p> <p>(1) 年間の稼働率 88%の達成</p> <p>(2) IT 化を進めて業務の効率化</p>

今年度の目標	<p>【ケアハウス】</p> <p>(1) 年間の稼働率80%の達成</p> <p>(2) 特定施設化への転換検討</p>
職員採用計画	<p>【特 養】</p> <p>○ 介護職員の負担軽減の為、シーツ交換や清掃などを担当する介護助手(2人)を採用する。</p>
地域との関係構築	<p>【特 養】</p> <p>(1) 幸手市介護相談員の受け入れ</p> <p>(2) 地域連携事業参加者等の特養見学受け入れ</p> <p>【通 所】</p> <p>(1) ボランティアの受け入れ</p> <p>【居 宅】</p> <p>(1) 医療機関との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関との入退院時における情報共有 <p>(2) 介護サービス事業者(訪問介護、デイサービス、福祉用具事業者等)との連携強化</p> <p>(3) 地域包括支援センター、行政機関との協力</p> <p>【小規模多機能】</p> <p>(1) 地域夏祭り協力</p> <p>(2) 地域防災訓練の協力</p> <p>(3) 認知症相談室の実施</p> <p>(4) おれんじカフェ(認知症カフェ)の実施</p> <p>(5) 幸手看護専門学校実習生受け入れ</p> <p>(6) 認知症サポーター養成講座の共催</p> <p>【ケアハウス】</p> <p>(1) 感染対策を講じて、外部ボランティアによる企画・行事の再開。</p> <p>(2) 移動販売を地域の方々にも利用してもらう。</p>
主な修繕・改修工事、備品購入の予定	<p>【特 養】</p> <p>○ 地域密着型特養入浴機器(株)アマノ製特浴及び個浴の整備</p> <p>○ 地域密着型特養1階2階浴室、脱衣室改修工事</p> <p>○ 地域密着型特養1階2階クロス張替</p> <p>【通 所】</p> <p>○ 食器</p> <p>【居 宅】</p> <p>○ タブレット端末の整備</p> <p>【小規模多機能】</p> <p>○ 介護記録ソフト(NEXT CarePalette)整備</p> <p>【ケアハウス】</p> <p>○ 女性浴室・脱衣場の床の張替</p> <p>○ 和室の床の張替</p>

目標達成に向けた取組

【特 養】

(1) 年間の稼働率 95%の達成

- ① 空床利用の促進
 - 入所希望者の獲得
入所希望者の獲得の為、居宅介護支援事業者へ空床状況等の連絡を随時行う。
 - ベッドマネジメント
長期入所の空床が無い場合に、在宅復帰が困難な長期入所希望者等があった際には、短期入所を利用し、長期入所を待機する。
 - 即座に対応できる介護課の体制
緊急的な短期入所等の受け入れをおこなえる体制を整える。
- ② 入院者数の低減
 - 感染症による入院者数の低減を図る為、感染予防対策の強化

(2) 身体拘束者をゼロにする。

- ① 職員の意識改革
 - 施設長による「身体拘束ゼロ宣言」により、職員への意識の浸透を図る。
 - 令和6年3月に発行された「介護施設・事業所等で働く方々への身体拘束廃止・防止の手引き」をもとに研修会の実施
- ② 見守りのための要員確保
 - 介護業務を洗い出し、掃除や洗濯など補助的業務は介護助手に担当させるなどして、介護職員が業務に専念できる体制を構築する。

(3) 導入機器の活用方法の習熟

- ① メーカー等による機器の使用方法について講習会の開催（3回）

(4) 地域密着型特養の大規模修繕の実施（幸手市に令和6年度補助協議済み）

- 特養1階2階浴室、脱衣室改修工事・クロス張替
- 交付申請： 7年7月～9月
入札予定： 7年 11月
工 期： 7年 12月～ 8年 3月

【通 所】

(1) 稼働率の向上と一人当たりの単価を上げるための新規加算の算定

- ① 稼働率の向上
 - 外出レクや手芸・創作レクの充実を図る。個別創作だけでなく、職員・利用者の共同作業での創作を行い、作品展示をする。
 - 体験、新規の依頼を増やす為、久喜方面の居宅介護支援事業所へ営業を行う。

- 食器を変え、見た目から喜んでもらえるようにする。また、温かい状態で美味しく提供できるようにする。

② 一人当たりの単価を上げるための新規加算の算定

- 「口腔機能向上加算」を算定→①チェックシートを元に利用者・ご家族様にアセスメント
②ケアマネへ加算算定の報告③チェックシートの結果、加算算定の同意書を家族に説明しサインを頂く。

【居 宅】

(1) ICT 活用と業務効率化

- ICT (タブレット端末) を活用し、記録業務時間の短縮を図る。

(2) 地域との連携強化

- 医療機関、訪問介護、通所介護、福祉用具事業所等との情報交換の実施→利用者に関わる全ての事業所において、ほぼ毎日行っている。
- 地域包括支援センターとの連携強化→電話・面談・書面にて行う。
- 安心セーフティーネット事業への協力→セブンイレブン商品寄贈プロジェクト、食料支援等

【小規模多機能】

(1) 年間の稼働率 88%の達成

- 施設の「特徴や強み」「リアルタイムな空室情報」をホームページに定期情報発信する。
- 営業する際には、写真やイラストを載せたパンフレット・広報誌を手渡し、ニーズに合わせた情報を提供する。

(2) IT 化を進めて業務の効率化

- 介護記録の電子化を行い、情報の一元管理を行う。

【ケアハウス】

(1) 年間の稼働率 80%の達成

- ホームページを有効利用し、施設内容・情報を発信する。また、地域包括支援センター・市役所・病院等に空床情報を発信する。

(2) 特定施設化への転換検討

- 入居者の状態が重度化している現状を踏まえ、将来的には、介護型の特定施設への転換を視野に入れる。

令和7年度 ひらすかの郷事業計画書

現 状 と 課 題	<p>【特 養】</p> <p>(1) 介護職員の配置人数が少なく余裕のあるケアが行えていない。</p> <p>(2) 入居者の教養娯楽の内容が画一化している。</p> <p>(3) 変更を伴う BCP や規則、各種規程類で、配布されている物の更新が遅い。施設全体の情報の共有や意思疎通が十分でない。</p> <p>(4) 職員教育においてオンライン研修を行ってきたが、それだけでは習熟が不十分ではないか。</p> <p>(5) 特養の入居申し込みが少なく、待機者が減少している。</p> <p>(6) 取得している加算が少ない。</p> <p>【通 所】</p> <p>(1) 通所介護の稼働低迷。</p> <p>【地域交流】</p> <p>(1) 地域との交流が希薄で施設の事が十分に認知されていない。</p>
今年度の目標（稼働率）	<p>【特 養】</p> <p>年間の稼働率 96%</p> <p>【通 所】</p> <p>月平均稼働人数の目標を 15 人(定員の 75%)</p>
今 年 度 の 目 標	<p>【特 養】</p> <p>(1) 介護職員(1 名)、介護助手(3 名)の採用と ICT 機器を活用した業務の効率化</p> <p>(2) ユニット毎に運営計画を作成し、計画に基づき企画されたレクリエーション等を実施</p> <p>(3) 業務アプリケーションを導入し、情報共有や業務の効率化</p> <p>(4) 外部研修への積極的な参加</p> <p>(5) 年間の稼働率 96%</p> <p>(6) 栄養マネジメント強化加算の取得</p> <p>【通 所】</p> <p>(1) 月平均稼働人数の目標を 15 人</p>
職 員 採 用 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特定技能実習生の追加採用を行う。(1名目標) ○ 非常勤の介護助手職員を採用する。(3名目標) ○ 現在4名の派遣介護職員を直雇採用者に切替える。 ○ 管理栄養士を採用する。(1名目標 桜楓苑と兼務)
地 域 と の 関 係 構 築	<p>【令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 八代地区代表区長と話を進めた結果、喫茶室やデイサービスホールの空いている時間の利用についての要望があった。 ○ 幸手市子ども会育成連絡協議会の活動としてドローン講習会の為に日曜日の午後にホールの開放 ○ 喫茶室で八代区長会が開催され、施設の紹介等行いました。

<p>地域との関係構築</p>	<p>【令和7年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和6年度から実施しているドローン講習会へのホール開放の他、八代地区で行われる予定の農業体験会への協力、更に地域交流行事実施し、施設の機能を紹介し、地域の人々にとって身近な施設であることを紹介したい。また、地域交流を通じボランティア等の受け入れに繋がりたい。 ○ 幸手市と協定を結んでいる移動スーパー（移動販売車）を受け入れる。それに伴い、自治会等を通じ地域住民への広報を行う。
<p>主な修繕・改修工事、備品購入の予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中間浴槽2台 ○ 一般浴槽（ももユニット） ○ シャワーチェア3台 ○ テーブル（ユニットリビング、喫茶室）（ふじ・さくら） ○ 浴室壁紙の張替え ○ 各ユニットのキッチン収納 ○ 乾燥機 ○ 厨房冷凍庫 ○ 厨房冷蔵庫 ○ ソファ

目標達成に向けた取組

【特 養】

(1) 介護職員(1名)、介護助手(3名)の採用とICT機器を活用した業務の効率化

- ① 職員採用については、「職員採用計画」のとおり。
 - ICT機器導入実績とその運用状況を職員求人情報に掲載する。
 - 地域交流を通じ、介護補助等の短時間パートなどの採用に繋げる。
 - 介護助手の業務内容や指導体制についてマニュアルを作成する。
- ② ICT機器を活用した業務の効率化
 - ICT機器の運用方法について、介護職員に3か月毎にアンケートを取り、導入前後の業務負担や精神的な負担の状況を把握する。
 - アンケート結果を受けて、運用方法や業務の見直しを検討する。

(2) ユニット毎に運営計画を作成し、計画に基づき企画されたレクリエーション等を実施

- ユニット費を年間3万円から6万円に増額する。
- ユニット毎の運営計画で企画された内容を査定し、その内容により更にユニット費の増額を行う。

(3) 業務アプリケーションを導入し、情報共有や業務の効率化

- 職員が、既存の介護記録ソフト内にある掲示板機能や全てのパソコンから閲覧できる共有ファイルを積極的に使用するよう習慣づける。
- 業務の効率的な遂行に必要な事（こんな風に出来たらいいな）を洗い出す。

(4) 外部研修への積極的な参加

- 埼玉県社会福祉協議会 福祉研修センターで計画されている研修から、受動的に聞くだけの研修でなく、対面でグループワーク等のある研修を選択し計画的に受講させる。
- ユニットケアの理解をより深めることを目的に、日本ユニットケア推進センターで計画されるユニットケア研修を受講させる。
対象は介護職に加え、看護職、管理栄養士も対象とする。

(5) 年間の稼働率96%の達成

- ① 入所申込者数の増加
 - 都心部に近い方も利用希望者が多くいる可能性があるので広域的な広報活動を行う。
県南エリア(春日部市、越谷市、草加市)を中心に病院や老健、居宅支援事業所などへ直接訪問し、空き状況や料金、施設説明などに合わせ情報交換を行い、その結果をデータベース化し定期的に情報提供を行う。利用希望者を掘り起こし、新規申し込みにつなげられるようにする。
- ② 入院等による空床が出た際の円滑な短期入所者の確保
 - これまで以上に、地域の医療機関や居宅介護支援事業所へ、空き状況の連絡をする。
ホームページの空き情報に加え、市内及び近隣の居宅支援事業所へ毎月空き情報を流す。
FAXやメール等、事業所ごとの有用なツールを確認し、利用に繋げていくためのデータベース

を作り、活用する。

(6) 栄養マネジメント強化加算の取得

- 桜楓苑と兼務する管理栄養士を採用することで、桜楓苑（広域 50 人＋地域密着型 18 人）ひらすかの郷（広域 68 人）の場合で、2 施設合計 5,600,000 円程の加算取得が見込まれる。

【通 所】

(1) 月平均稼働人数 15 人の達成

- 通所介護の日々の活動プログラムの見直し。
何に興味を持って、何をしたいのかを日々の生活や活動の様子、会話の中で聞き取りながら、利用者の身体状況及び認知状況を把握し、個々の出来ることを最大限生かして選択できる活動内容を提供する。
- イベントを企画する際、漫然と企画するのではなく、的を絞った形の定期的なアンケート等によりニーズを把握し、そのニーズの実現に向けた形でイベントを企画する。また、通所介護以外のスタッフとも協議し、食事の見直しや、特養との共同企画など、新たな視点からイベントを企画する。
- 広報活動を行う。
居宅介護支援事業所への実績報告の際に、新たなイベントの企画や実施されたイベントの風景など、事業所の状況をアピールするツールを作成、配布し、新規利用者の獲得に繋げたい。

令和7年度 幸手東地域包括支援センター事業計画書

<p>現 状 と 課 題</p>	<p>(1) フレイルが周知されておらず、介護予防活動につながっていない。</p> <p>(2) 減らない孤独死と、「孤独」が及ぼす身体的・精神的・社会的健康への多大なる悪影響が懸念される。</p> <p>(3) 介護保険サービス以外の総合事業サービスが市内にはA7(ひらすかの郷) 1か所しかなく、高齢者の多様なニーズを充足する選択肢がない。</p>
<p>今 年 度 の 目 標</p>	<p>(1) 地域住民に対しフレイルの周知と啓発を行い、フレイルは可逆性があり元の生活に戻ることが可能な状態である等の正しい知識の周知し、介護予防活動の拡大を図る。</p> <p>(2) 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域住民に対する見守り体制を見える化し、誰も孤立させない町づくりの構築を目指す。また地域住民による緩やかな見守り活動を介護予防の取組と連動させる。</p> <p>(3) 八代地区区長会との連携・協働により第2層協議体を設立する。</p>
<p>目標達成に向けた取組</p>	<p>(1)</p> <p>① 老人福祉センターに通っている運動習慣のない文化系趣味グループに対し、フレイルの周知と啓発を行い、体力測定と定期的なモニタリングを行うことで、意識の変容と生活習慣の改善を目指す。</p> <p>② 「介護予防と保健事業の一体的実施」へ協力し、対象者に対して一次予防事業等の適切な事業へつなげる。</p> <p>(2) 「あんしん見守り登録サービス」を事業化するため、八代地区において行ったモデル事業を、東圏域全体を対象とし、運営方法につき、地域住民の意見も参考に、拡大事業を実施していく。各地区においてタウンミーティングを行い、地域のニーズに応じた具体的な事業の実行性を検討する。</p> <p>(3) 住民主体の通いの場や課題解決の場をひらすかの郷に設置し、A3 やサービス B、D (移送支援) を含む多様な住民サービスの開発を行う。区長会定例会はひらすかの郷において開催、協議の場に参加し、試行的に世代を超えた様々な活動を行う。</p>
<p>地域との関係構築</p>	<p>(1) 地域ケア会議を推進し個別ケースの課題分析等を積み重ねることによる、地域に共通した課題を浮き彫りにする機能の発揮や資源開発の基盤づくりを行い、令和8年度に事業化する。</p> <p>(2) 地域づくり・資源開発</p> <p>法人本部のある八代地区において、ひらすかの郷を地域拠点とした地域の課題解決の場を設置し、地域住民、社会福祉法人及び地域包括支援センターの連携による地域づくりのモデル事業を行う</p>

地域との関係構築	(①の地域モデルとする)。インフォーマルサービスや地域の見守りネットワークなど、地域に必要な資源の開発や福祉避難所としての施設、地域自主防災、要援護者の災害対策シミュレーション等、有事に生きる平時の防災訓練を行う。
主な修繕・改修工事、備品購入の予定	<p>(1) 携帯電話については iPhone7 のため LINE のアップデートもできない状態</p> <p>(2) iPad については充電も出来ず使用不可</p> <p>上記については、早急の対応が必要</p>